

研究課題名	非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）患者の肝関連、非肝関連イベントに関する予後の検討 【共同研究】
研究対象期間	実施承認日～2025 年 9 月 30 日
研究の対象	1999 年 4 月から 2024 年 12 月までに画像検査にて非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と診断され、確定診断のために肝生検が施行された方。
研究目的	非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）は進行性の非アルコール性脂肪肝炎（NASH）と予後良好な非アルコール性脂肪肝（NAFL）に大別されます。NASH は進行性の疾患で、肝硬変、肝細胞癌へと進行するリスクが高いと考えられています。NAFL は肝臓に脂肪がたまっている状態で、ほとんど進行しないと考えられています。この研究は NAFLD と診断された方を対象として、肝硬変合併症、肝細胞癌、脳梗塞・出血、心血管イベント、他臓器癌の合併などの予後を調査します。NASH と NAFL 間で合併症の頻度がどの程度違うのか、また肝線維化進行の度合いや非侵襲的線維化予測マーカーなどを用いて予後の検討を行います。海外ではこれまで多くの研究によって非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の予後調査が行われていますが、日本での検討は少なく本研究は重要であると考えられます。
研究に用いる診療情報等の種類	データ収集は、すべて電子カルテ上に記載された医師記録、経過表、画像検査や採血検査の結果からのみとします（生活習慣病を含む患者背景因子、一般採血結果、肝線維化予測マーカー、内服歴、肝生検結果など）。肝細胞がんなどの肝に関連した状態、脳卒中、心筋梗塞、肝臓以外の他臓器癌の発症率、死亡率など予後に関して情報収集します。
研究方法	上記の期間内に腹部超音波検査や CT 検査と病歴聴取にて非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と診断され、確定診断のために肝生検が施行された方を対象とし、後ろ向きにデータの収集を行います。治療効果や予後を統計ソフトにて解析します。
研究責任者	名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器内科学 准教授 石上 雅敏
当院担当者	津島市民病院 消化器内科 部長 荒川 大吾 TEL 0 5 6 7 - 2 8 - 5 1 5 1